

おたる 西別院だより

みんなの力で本堂平成大修復を成功させよう

謹 賀 新 年 号



素屋根取りはずし間近の大屋根

別院年末年始の行事と催し

- | | |
|-------------|-------------------------------|
| ○除夜会 | 12月31日（水）15時 |
| ○除夜の鐘 | 12月31日（水）23時50分 |
| ○元旦会 | 1月 1日（木） 6時30分 引き続き御流盃の儀 |
| ○宗祖御祥月御命日法要 | 1月15日（木）・16日（金）13時30分 |
| ○新年交礼会 | 1月16日（金）16時 場所 別院会館ホール 会費 2千円 |

1月10日までに別院へ電話でお申し込み下さい。TEL 22-0744

12月29日（月）より1月6日（火）まで月忌参りをお休みさせていただきます。

— 年頭の辞 —

無量寿

新しい年のはじめにあたり



輪 番 片 山 晃 英



門信徒のみなさまに年始のご挨拶を申し上げます。

門信徒の皆様にはお健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

お正月に山科観修寺村の道徳という人が、蓮如上人のもとへおまいりされた時、蓮如上人のお言葉は「いくつになるぞ、道徳念仏申さるべし」の一言を、私達は心していただくことであります。

さて、小樽別院では現御堂が建てられ九十年の長い間風雪に耐え、老朽化致したご本堂のご修復に着手いたし、崇敬寺院を初め、広く門信徒の皆様や有縁の方々には、多大のご協力を頂戴致しておりますこと大変有り難く感謝申し上げます。

この歳末は、皆様のご懇念の集大成により無事

越年することが出来ました。

しかしながら、今後の修復の推移に必要な懇念は、遠く及ばない現状であります。

つきましては、皆様のご先祖の方々は、血と汗の結晶のご本堂を私達に引き継いで下さいました。今度は私達が修復を致し、永く後世の子孫に遺し伝える役目となります。どうぞ別院の修復が、無事完遂いたすにはどうしても、門信徒の皆様のお力添えなくしては、成就出来ません。

以上のご事情をご賢察の上、一日も早いご協賛のご協力をお願い致し、新年のご挨拶と致します。新年のご流盃の儀には、小樽の空に新しいご本堂の雄大な姿を見せることでしよう。

合掌

二〇〇四年（平成十六年）
年 忌 表

法要についてのお願い

●法要をご予定の際には、日取りを事前に別院とご相談の上、お決めくださいますようお願い致します。

●別院にて年忌法要を執り行われます場合は、使用冥加金を申し受けます。

一周忌	—	平成十五年
三回忌	—	平成十四年
七回忌	—	平成十年
十三回忌	—	平成四年
十七回忌	—	昭和六十三年
二十五回忌	—	昭和五十五年
三十三回忌	—	昭和四十七年
五十回忌	—	昭和三十年

謹賀新年

本願寺小樽別院

書記	書記	承仕	承仕	承仕	参勤	参勤	参勤	副輪番	副輪番	輪番	小樽幼稚園々々長	調理師
渡部 恵	相馬 早苗	猪口 大悟	村田 法道	若竹説教所主任 温井 卓生	緑説教所主任 梶 純信	磯村 真一	新光説教所主任 村上 隆昌	奥沢説教所主任 武藤 三孝	西川 達恵	片山 晃英	双葉高校理事 小樽幼稚園々々長	本郷 昶子
仏教青年会々々長 岡本智恵子	仏教婦人会々々長 宮本 英子	仏教壮年会々々長 辻井 聡克	総代 猪田 格一	総代 杉本 守巧	総代 福島 正紘	総代 宮本 英子	総代 長谷川博俊	総代 竹田 栄治	総代 北川 紋二	責任役員 小紙 文隆	囃子用務員 驚頭千津子	囃子用務員 本郷 昶子
若竹保育所職員 所長 青柳 順子 主任保育士 金山 和枝	臨時教諭(ならし保育) 鈴木登喜子	臨時教諭(ならし保育) 川上 尚美	臨時教諭 伊藤 淳介	臨時教諭 真鍋 智子	臨時教諭 澤田 修二	臨時教諭 古川千賀子	臨時教諭 本間 美樹	臨時教諭 藤井 亜季	臨時教諭 吉岡のぞみ	臨時教諭 中里 美果	臨時教諭 高木 美和	臨時教諭 嵯峨 久世
新光保育園職員 園長 高柳 廣章	臨時保育士 長南 文子	臨時保育士 鈴木 雅恵	臨時保育士 柿澤 里和	臨時保育士 小笠原典子	臨時保育士 小林由貴子	臨時保育士 齊藤智恵子	臨時保育士 増田 知江	臨時保育士 石上 恵理	臨時保育士 五十嵐 恵	臨時保育士 赤坂加奈美	臨時保育士 谷藤久美子	臨時保育士 嵯峨 久世
臨時調理員 長南 文子	臨時調理員 鈴木 雅恵	臨時調理員 柿澤 里和	臨時調理員 小笠原典子	臨時調理員 小林由貴子	臨時調理員 齊藤智恵子	臨時調理員 増田 知江	臨時調理員 石上 恵理	臨時調理員 五十嵐 恵	臨時調理員 赤坂加奈美	臨時調理員 谷藤久美子	臨時調理員 嵯峨 久世	臨時調理員 嵯峨 久世



ご案内

お 晨 朝

毎日 午前6時30分

常 例 布 教

毎月7日～11日 午後1時30分
13日～16日 午後1時30分

仏教青年会

毎月1回 午後7時30分

仏教婦人会

毎月15日 正午(おときあり)

仏教壮年会

毎月6日 午後7時

おつとめしま専科!

毎月2回(火曜日) 午後2時

ボーイスカウト

毎月1回(土曜日) 午後2時

日曜仏教講座

毎月1回(第3日曜日)
午前9時30分

十 九 日 講

毎月19日 正午(おときあり)

各説教所の案内

●奥沢説教所

樹心会 5日 午後7時
唯信講 10日 正午

●若竹説教所

彰心会 7日 午後7時

●緑説教所

無量講 9日 午後6時

●新光説教所

法友会 13日 午後6時

●3分間の心のともしび

小樽別院

テレホン法話

24時間
いつでも
どうぞ

TEL 27-1616



①～③ご本堂の瓦葺き



ご本堂編

見下ろした屋根



①

瓦葺きは一枚一枚手作業

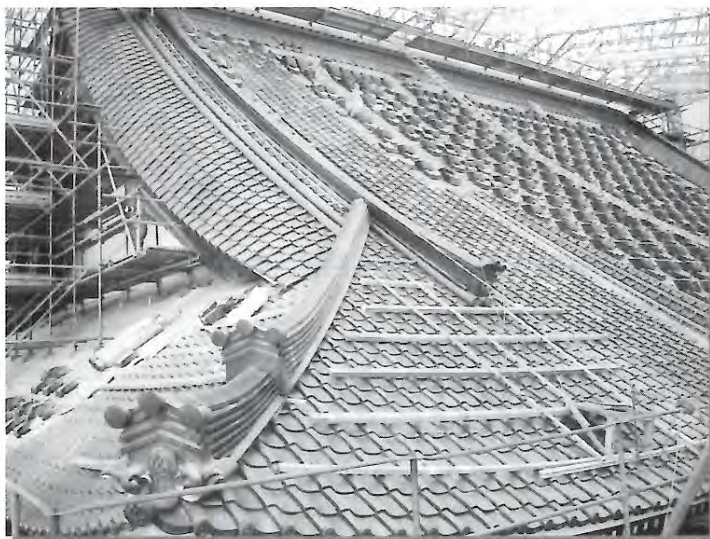


葺き上がった瓦

完成間近かのご本堂裏の屋根



②



③



鬼瓦の組み立て

第四回 ご本堂の修復状況

ご本堂御修復通信 特集



ご本堂外陣

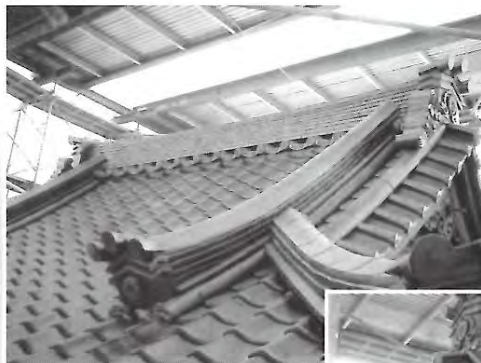


ご本堂床下

鐘 楼 編

今年は新しくなった鐘楼堂で除夜の鐘を突いていただきます。

当日は暖かい食べ物をご用意してお待ちしておりますのでご家族・お友達おそろいにてお越しください。



鐘楼の屋根



鐘楼の内部

本堂修復懇志完納者ご尊名

（平成十五年十一月二日現在）

●天井絵特別懇志

金貳百萬元

宮本 英子
高橋 米蔵

川上 正美
北川 紋二
猪田 格一
小紙 文隆
福島 正紘
竹田 栄治
寺澤 スガ
田村 ヒロコ

金壹百萬元

澤田 京子
早見 三郎
宇野 信子
小竹 一央
三箇 一弘
宮本 和彦
辻 啓子
白勢 ヨシ
本間 正一
西野 喜十
柴田 良雄
佐野 喜造
辻井 富士男
田中 修次
宮本 みい
福村 要吉
中川 なを子
佐藤 実
西田 正信
星野 ツヤ

三浦 幸子
川崎 正吉
高岡 フミ
松川 企一
近藤 英夫
牧田 全弘
星野 清成
中川 良一
星野 嘉雄

●本堂懇志完納者

東 信吾
山田 アサ
小倉 一徳
水上美枝子
関 藏
栗林 務
河田 安正
牧田 全弘
北川 紋二

金六拾萬元

福川 イサ
島本 邦子
森 政一
岩井 良子
駒寄 初枝
辻井 幸雄
大野 友暢
今井百合子
奥田百合子
辻井 富男
佐藤 又一
亀山美恵子
花和 常三
松井美智子
堀田 初子
大西 公子
四方 薫三
五十嵐清彦
佐々木百合子
井田 長女
井上 勇
辻井 聡克
本間 静枝

金壹百萬元

井上 栄

金八拾五萬元

平田 晴己

金八拾萬元

安宅 淳
嶋田 善雄
猪田 昭司
福川 イサ
三井 昭
石墨 仁一
藤原 昇
三浦 幸子
虎谷 賢一
野田 明
藤沢 尚士
前田 幸一

金五拾萬元

三箇 一弘
桶 ノブ
棧敷美恵子
近藤 ふじ

金四拾三萬元

武田美代子

金四拾萬元

荒木美津子
石田 善久
伊藤スエ子
上野 正栄
沖田 ミヨ
加藤 正雄
川元 昇
木村ジュン子
近藤 英夫
斎藤 節子

佐々木百合子
紫竹 利雄
杉本 守巧
高橋 敏明
貴正 政行
瀧田 菊一
辻 啓子
辻田キミ子
坪田 節子
中嶋 知江
福井八重子
宮本 和彦
森谷 久子
山内 雅一
山下 法子
吉村 治彦
荒井 辰義
荒田 れい
石倉 利夫
石谷多美子
猪田 耕市
猪田 芳枝
今井百合子
岩船 寿
碓井 正
大野アイ子
亀山美恵子
中田 宏
鳴井 喬浩
林屋美智子
深川 正雄
藤野 信一
本間 昭吉
松原 良勝

新木 久子
荒木 宏
五十嵐タマ
宇野 信子
大浦 義教
大竹トモ子
大野 友暢
岡川 照男
金森 玲子
北村 潔
桑原 茂夫
伏黒 敬一
是安 正和
高瀬 一彰
高本 幹也
塚田 郁雄
辻 國夫
寺澤 スガ
中村 喜照
馬場 誠二
古澤 ミキ
本間 祥一
最上 英世
本江 正臣
山本 タマ
吉田 芳子
石田 博
岩山 豊
鷹野 正義
成田 治子
三浦 ユキ
岩井 良子
倉町 栄一
中川 なを子

福村 要吉
大橋百合子
堀畑 義昭
水上 進
宮本とし子
山岸勇之助
山口 庄次
鰐淵 誠
荒木 ミツ
梅沢 茂雄
小田 誠
小野寺一夫
高橋 甫夫
多賀美枝子
田中 秀雄
大門 治雄
西野 喜十
花本 和夫
久木 まさ
平野 マキ
福井谷高信
福井谷真理子
堀田 初子
安川 吉松
山口 昇
吉村 公乃
江上 幸一
大坂 敬一
大西 ヒデ
奥田百合子
川上 公
木原 檀枝
小林 薫
佐藤 又一

新出 廣
田宮 恭子
辻井 幸雄
中村 澄
東出 静子
本間 静枝
本間 正一
毛利 邦夫
八ッ井健一
吉川 常男
飯島 重良
猪田 格一
岩井加代子
大橋梅次郎
金山カツ子
亀田 よね
川脇 ふさ
木下 秀子
佐野 喜造
佐野 清一
高橋 勝也
田中さき代
辻井富士男
川口 孝弘
川原 菊代
北飯 セツ
鈴木 博子
瀬戸川義明
高畑 菊美
田中 ハル
田宮 馨
千坂 弥生
辻井 富男
中津 サタ

中村 訓敬
畑 範雄
藤井 武史
松井美智子
村林 信三
室谷 ヤス
山上 順子
吉井唯三郎
吉岡 英彦
吉田 寿夫
鰐淵昭一郎
赤丸 愛子
荒井 義光
海老名年行
奥山 敏三
加藤 精一
木原 清蔵
黒川 昭和
坂田 知子
佐藤 新治
柴田 良雄
島田 フミ
清水サツキ
武部 喜夫
花和 常三
松村仙太郎
宮崎 愛子
村木 誠一
室谷 和嘉
安田 クニ
阿波カヲル
石塚ミサヲ
今堀みえ子
岡 満

掛端 シズ	中島 信子	松本 耕一	羽崎 輝	井上千枝子	池田 良治	佛田家	金六拾萬円	金壹百貳拾萬円
倉野 幸夫	西田 正信	深尾トメ子	井田 長女	逢見 輝義	小林 官勝	高頭 妙子	真光寺（後志組）	西川 達恵
田中 修次	長谷川 勉	清水平太郎	岡田 菊江	坪田 一則	井田 成雄	岡部 満男	法雲寺（宗谷組）	武藤 三孝
谷口 與一	馬久地チヨ子	松浦 英尾	竹内侃二郎	矢崎 友子	牧田カオリ	大野アイ子	浄楽寺（留萌組）	勝圓寺（札幌組）
土野 タマ	松本 良造	斉藤 光枝	高島 茂	穂山喜恵子	田中 信一	増田 チヨ	金壹拾萬円	金壹百萬円
長谷川良子	森 吉勝	佐川 秀逸	谷本 八郎	中川 良一	石田 丈士	大江 智朗	金五拾萬円	金五拾萬円
福井 千代	工藤 忍	高橋 米蔵	滝田 章治	藤 隆	小竹 一央	十九日講	唯信講	光雲寺（後志組）
藤松 義之	河野末五郎	鳴海 正一	竹内ハル子	能町 瑛	浅野 彰夫	樹心会	法友会	大成寺（後志組）
杉山 栄郎	佐々木朋子	西森キミ子	宮下 雄宇	長 忠	上野 操	彰心会	永福寺（留萌組）	本念寺（後志組）
中舎 光子	柴田 浩造	宇野 鉄一	黒田 康子	福井 秀昭	高柳 廣章	金五萬円	西連寺	明善寺（後志組）
野田 明	志村 和雄	長下部キミ	宮川 省吾	福井 谷 始	山内シズ子	金五拾萬円	（長崎教区佐世保組）	乘念寺（後志組）
野田恵美子	山崎スミ子	長谷川健治	大村カツ子	折橋 知代	高頭 栄次	金貳萬円	（東京教区中組）	照覚寺（後志組）
吉田フサエ	四方 薫三	福田 ミヨ	富田 洋平	日和 裕子	吉川 忠志	金貳萬円	（東京教区中組）	東林寺（後志組）
佐藤 利次	及川 組江	平口山紀美子	折橋 知代	高野 裕子	高橋 悦子	岡 玲（本山課長）	元別院職員	西教寺（胆振組）
宮本 英子	木下 清	山田 藤夫	高 敏雄	高野 裕子	紙谷 ハツ	金貳拾萬円	金貳拾萬円	金參拾萬円
大沼 昭雄	清水サツキ	菊 豊	高橋 愛子	吉川 忠志	小林 雄進	金貳拾萬円	（東京教区中組）	相馬 早苗
林 千鶴子	大原 美佐	北村美智子	萩野 稔	伊藤 祐子	高橋 悦子	金貳拾萬円	（東京教区中組）	村田 法道
鎌田 美代	川崎 正吉	山部 博幸	高野 裕子	伊藤 祐子	高橋 悦子	金貳拾萬円	（東京教区中組）	猪口 大悟
林 永正	児玉 京子	上出 一雄	吉村 誠治	高橋 悦子	高橋 悦子	金貳拾萬円	（東京教区中組）	温井 卓生
山田 ひで	古瀬 澄	相馬 輝子	小紙 文隆	紙谷 ハツ	紙谷 ハツ	金貳拾萬円	（東京教区中組）	
久保 敏男	本田 壮稜	古川 治	田中 宏	金田 芳明	金田 芳明	金貳拾萬円	（東京教区中組）	
福永 浅子	安川 雄司	中西 妙子	井上 勇	小野 哲郎	小野 哲郎	金貳拾萬円	（東京教区中組）	
横谷チエ子	山田 清和	西森 治美	西田 正雄	西尾 ミヨ	安藤トモ子	金貳拾萬円	（東京教区中組）	
田中 ミツ	山田勇太郎	東田 正一	竹田 栄治	安藤トモ子	小野田儀信	金貳拾萬円	（東京教区中組）	
松川 企一	浅田 敦蔵	室谷美美子	鉢呂 幸夫	永井 勝子	白崎 義朗	金貳拾萬円	（東京教区中組）	
悦永 勇	佐藤 久行	岡田美津枝	荒井 慎一	谷 七太郎	本江 テル	金貳拾萬円	（東京教区中組）	
鍵市 勝秀	徳光 敏子	木下 義明	阿部 恒久	高岡 フミ	坂垣 正人	金五拾萬円	（東京教区中組）	
太田 圭信	鎌田 省三	小前真智子	高岡 フミ	坂垣 正人	板垣 正人	金五拾萬円	（東京教区中組）	
松山 政義	田邊 ナツ	佐藤 嘉晃	高岡 フミ	坂垣 正人	板垣 正人	金五拾萬円	（東京教区中組）	
鈴木 定夫	五十嵐清彦	清水 幸延	坂野 澄	他屋 恵男	石川キミエ	金五拾萬円	（東京教区中組）	
大西 公子	清水喜代子	高橋 清二	伊藤 淳介	他屋 恵男	石川キミエ	金五拾萬円	（東京教区中組）	
村田 キミ	竹田 道治	高橋 博子	吉田 光弘	高田 良子	永森 静子	金五拾萬円	（東京教区中組）	
境 君子	渡辺 てる	夏伐 静子	内田 サト	高田 良子	永森 静子	金五拾萬円	（東京教区中組）	
加藤 キミ	宇野 弘昌	能町 富雄	青山 聡	伊東 恭子	名取美枝子	金五拾萬円	（東京教区中組）	
紅露 文美	大浦 義教	久住三ツ井	布目 寿子	篠田 洋三	宮口 久子	金五拾萬円	（東京教区中組）	
高橋 幸彦	大野 トモ	秦 要	伏黒 キク	山岡 幸子	多賀 修	金五拾萬円	（東京教区中組）	
新谷富美子	早見 三郎	吉岡佐代子	真田 テル	河笠 光男	脇本 悦子	金五拾萬円	（東京教区中組）	
酢谷 英男	福島 正紘	駒寄 初枝	笠原 朝雄	花田 徳治	花坂 健三	金五拾萬円	（東京教区中組）	

別院フォトクラブ

報恩講編



平成15年 小樽別院報恩講



双葉高校参拝



ご満座（御礼言上）



三園参拝

次回もお楽しみに。

全日本葬祭業協同組合連合会北海道葬祭業協同組合会員
社団法人全国霊柩自動車協会北海道支部連合会札幌支部

安心と信頼 **if** 共済会取扱店

24時間営業

小樽典礼株式会社

小樽市稲穂3丁目4番1号

TEL (代) 27-1801・FAX 27-1804

DPE・カメラ・写真材料・出張撮影
各種照明写真・学校アルバム制作

写真のたかはし

小樽市緑1丁目5-5

TEL・FAX 0134 (22) 8959

夜 間 0134 (33) 0082

別院門信徒物語（平成14年11月10日～平成15年10月31日現在）

仏教用語豆ちしき⑧

精進 しょうじん

精進料理といえば、魚や肉類を使わない料理であることは誰でも知っています。

祭や葬式の後のように、身心を清める精進の期間が終わると、精進落ちとか精進明けと称して、肉食飲酒の宴がもたれるのをよく見かけます。

精進とは、もともと、仏教の実践徳目である「六波羅密」の一つで、精魂をこめて励み進むこと、努力精励することをいいます。このことから、一般に努力することを意味し、手紙などに「ますますご精進ください」などと書かれたりしています。

この精進に、日本では新しい意味がつけ加わりました。仏教が伝来する以前から、神事で行われていた潔斎と結びついて、精進潔斎といわれるようになったのです。心身を清め、行いをつつしむというものです。

肉や魚を使わない精進料理は、この意味から来たのです。



十人十声

●人ごとではなかった



西川 達恵

昔から「山に登る道は色々あるけれど、結局頂上に登って眺める景色は皆同じだ」とよく言われます。また宗教についても「いろいろな宗教があるけれど、いきつくところは、どの宗教も一緒だ」という人がいます。

どちらも私が不在で、目的に至る手段と考え、自分の進むべき道が決まっていなくて問題があるように思います。

とはいっても私の自身、寺に生まれ、小さい時からお念仏の声を聞いていながら、そのお念仏を私とは関係のないものと考えていました。どんな意味があるか知ろうともしないで、お念仏を人ごとと思っていました。

よくよく聞かせていただくと、阿弥陀様とは、すべての人々の苦しみや悩みを見捨てておけないと立ち上がったお方でした。

お念仏とは、阿弥陀様が私を「必ず救う任せよ」と呼んでくださる呼び声でした。

歎異抄に「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとへに親鸞一人がためなりけり」とあります。(親鸞を私に変えていただけてもらいます)

ただいまは、祖父や祖母、父や母のとなえたお念仏も、いま私の口から出るお念仏も、みんな阿弥陀様のお呼び声と聞かせていただきます。

●いのちの尊さ



村上 隆昌

お念仏を大変喜んでおられたご婦人が、妊娠なさいました。お医者さんに見てもらいますと、お産するとなると母

体が危険とのこと。この奥さんは「人間に生まれるのはよくよくの縁なのだ」と、かねがね聞いていましたので、「今、自分の体を守ることを優先すること、お腹の子は、もう二度と人間界に生をうけることは出来ないだろう。私は一縁に恵まれて、仏法を聴聞する身に育てられた。必ずお浄土に参り、仏様と一体のさとりを聞かせていただくのです。私のいのちと引きかえに、この子をこの世におくつてあげたい」と、お医者さんに切々と頼まれました。お医者さんには、もうどうする事も出来ないほどご婦人の決意は固く、出産の時待ちました。元氣な赤ちゃんが誕生し、成長していくにつれて、自分の命は、お母さんの命と引きかえに生まれた事を知りました。その子供さんは、きつと医学が発達していくれたら、お母さんは助かっていたらと思うと、もうこんな悲しい目にあう事のないようにしたいと、お医者さんになり、親子とも助かるような医学を身につけたいと願って勉強されました。

どうぞわが子よ、この世に生をうけて、仏法にあつてくれよとの願いで、命を投げ出して下さったお母さんの願いに生きるべく、一生懸命に仏法を聴聞されました。もちろん、立派なお医者さんにもなられました。命の尊いことは、誰でも知っています。ただそれを証明する生き方を忘れれば、人類の未来は暗闇です。仏教では、生きていく事と死ぬ事を含めて、罪悪生死といい、それは迷いだと教えます。そして、仏になることを救いといいます。仏に成る身になってこそ、迷いの世に生をうけた意義があります。割り切れないまま、底から支えてくださる如来さまの大きな願いを聞くことこそ、命の尊さを証明する道を生きていることではないでしょうか。

●自他一如



梶 純信

我々の浄土真宗において、ありがたい信者のことを「妙好人」と呼んでおりますが、昔、因幡(現在の鳥取県)に源左さんという名高い妙好人がおられました。ある

とき源佐さんが町へ行つて、山を越えて村へ帰つてきますと一人の女の人が一生懸命に田の草をとっていたそうです。しかし、その女の人の家から、火のつくように泣く赤ん坊の泣き声が聞こえてきました。源左さんは立ち止まってその女の人の、「赤ん坊があんなに泣いているじゃなにか。早くかえつてあげなさいよ」と声をかけたのだそうです。

女の人は仕事の手も休めないで「このたんぼの草だけを取っておかないと、明日の仕事にさしかかえすのもうちよつと、もうちよつとと思つて仕事しているのです。」と答えました。

すると源左さんは、「それならわしがかわりに草取りをしておいてあげるから、あなたは早くいつて赤ん坊に乳を飲ませてあげなさい。」といつてたんぼに入り草取りを始めたのです。女の人は非常によろこんで「そうしてもらえれば大助かりです。すみませんがあとをお願いします。」といつていそいで家へ帰っていききました。

さて源左さんの家族は、なかなか帰つてこない源左さんを心配し探しに出てみると、源左さんは他人のたんぼでござと草取りをしているじゃありませんか。

家族の人はちよつときついことばで、「家で心配しているのに、なにもそんなにしないでまで他人のたんぼの草取りをしてやらなくてもいいじゃないですか。」という、源左さんはにこにしながら「そんなに気の小さいことを言わなくてもいいじゃないか。仏さまのお心の中には、おれのものだ、他人のものだという区別はないじゃないか。」といひながら約束どおりたんぼの草取りを全部終わってから帰っていったそうです。

源左さんには「よいことをしてやっている」という意識はかけらもなく、おれのもの、他人のものという区別もなかったことがよくわかる逸話です。

「自他一如」といひまして自分と他人とを区別しないということであり、それはそのまま仏さまのお心であります。

何かにつけて恩着せがましい私が恥ずかしく感じ源左さんの逸話であります。

●見えないお働きによつて



村田 法道

新年あけましておめでとうございませう。本年もどうかお育ていただきます様お願い申し上げます。

さて、榎本英一さんの詩に「どうきん」という詩がございます。

「どうきんは他の汚れを一生懸命拭いて自分は泥にまみれている」

どうきんは、家の汚れを拭き取り、その汚れでどうきんは真っ黒になり、真っ黒に汚れたら、バケツの中で洗われ、ギョツと絞られ、再び汚れにまみれていきます。それを幾度も繰り返されいつかポロポロになって捨てられていきます。私たちはよそぎのハンカチにはアイロンをかけ大事にタンスの中にしまひます。しかし、どうきんのこととは、ついつい忘れがちです。私たちは、人の上立つて、目立つた仕事をして、人よりも良く思われたいと願っているのではないでしようか。しかし、誰にも気づかれない仕事の中にこそ、尊い事実があることを忘れてはなりません。

綺麗な花の下には、かくれた根の力や土の力がある。つまりは、誰も気づかれることのないかけの世界に私たちを生かして育てて捨てることのない尊い仏様のお働きがあることを、日々感謝の気持ちで「おかげさまで」と喜ばせていただきたいものでございます。

●アイスクリームは太りにくい?

相馬 早苗



甘くておいしいアイスクリーム。でも太ることが心配ですが、意外にもアイスクリームは太りにくいようです。太る太らないは炭水化物、脂肪分、糖分を体がどう分解するかで決まり、これらが二酸化炭素等に分解され、排出される量が多ければ太らないが、脂肪として蓄積される量が多ければ太ってしまいます。

アイスクリームを凍った状態と溶けた状態で食べた場合、凍った状態で食べた方がエネルギーの代謝が高く、食べたアイスクリームが効率よくエネルギーとして消費されるようです。

凍ったアイスを食べると、普通は変化が少ない直腸の温度が下がるため、体は熱を出して直腸の温度を戻そうとします。そのとき、体に蓄積されるはずのアイスクリームのエネルギーの一部が、直腸を温めるのに使われてしまうのです。

何と冷たさが太りにくい理由のようです。とはいえ、高カロリーであるため、食べ過ぎれば当然太ります。

みんな

小樽幼稚園

仲良し



～まこと(いのち)の保育を行ないます～



当園では、浄土真宗のみ教えに基づき「いのちの大切さ」「自然への感謝」「やさしい心」などを育てるよう保育に努めています。

又、お絵かきや工作などのクラスでの活動の他に、プール遊びや、週に2・3回クラス合同のホールでのリズム遊びなどを通し、異年齢の交流を深めており、年長から年少までみんな仲良く遊んでいます。

11月より、願書受付しておりますので宜しくお願いします。ご近所・皆様お誘い合わせの上、是非一度見学にお越し下さい。（年中見学可能です）

- ☆**保 育 時 間** → 月曜日～金曜日（8:40～13:30）
- ☆**昼 食** → お弁当～週3回 / 給食～週2回（パン食／米食）
- ☆**預 り 保 育** → 月曜日～金曜日（17:30迄）行います。（15:00迄は無料です）
- ☆**プ ール 遊 び** → 年間を通して、週1回温水プール遊びを行っています。
- ☆**英 会 話** → 月2回年長のみ行います。
- ☆**送 迎 バ ス** → ご希望の方は、ご自宅付近まで送迎致します。
- ☆**主 な 行 事** → 花まつり・降誕会・運動会・海水浴・親子遠足・バス遠足・
いも掘り・報恩講・お遊戯会・おもちゃつきなど。
- ☆**ならし保育** → 満2歳以上、就園未満のお子さんを対象に、毎週1回保育をします。
（いちご組）平成16年度は、5月よりスタートします。

※12月より願書受付を行います。詳しくは、入園案内をごらん下さい。

園児募集

途中入園可能

- 募集園児** 3歳児（H12.4.2～H13.4.1生まれ）20名
4歳児（H11.4.2～H12.4.1生まれ）50名
5歳児（H10.4.2～H11.4.1生まれ）30名
- 願書受付** 平成15年11月4日（火）から（13:00～17:00）
現在受付中です。

※事前に御連絡下さい。



学校法人 小樽龍谷学園

小樽市若松1丁目4番17号

小樽幼稚園

TEL
FAX

0134-22-6536